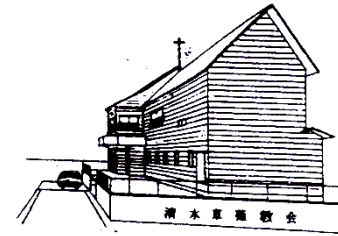


《今朝の聖書から》イエス様は、沢山のたとえ話によって教えられました。おそらく、私たちにとってもそうだと思いますが、旧約聖書を知っている信仰者であったということ、そして、主イエスに頼り、願い求めていた人々に語られたという前提があるようです。今の教会で説教者が話しやすいようにと、題材を用意されたのではありません。たとえ話と言うのは、わかりにくいことを、聞く人たちが分かりやすいように、体験できることになぞらえて、話されるものです。“わかりにくい”と言いましたが、決して難解という事柄だけでなく、“簡単だが信じがたい”というようなことを説明するときにも、たとえ話は用いられます。いずれにしろ、ここで、聞いていた人達・弟子たちは“今わかりました(16:33)”と答えています。キリストの罪に対する勝利が、今わかったと弟子たちは告白しているのです。しかし、本当にそうなのでしょうか。“本当にそうなのかと思っていた”ということが分かった時、本当にそうだったということが分かるのではないのでしょうか。信仰者の喜びが、その意識の中で、確かなことでないことは、いくらでもあるのではないのでしょうか。“世に勝っている”とイエス様は仰います(33節)。この節では目的もまた語られています。平安を得るため、というのがその目的です。もし、曖昧な確信に道をゆずっていたとすれば、愉快なことを求める思いが私たちの心に入ってきます。このような、愉快なこと、簡単にできること、地位のあることを求め続ける気持は決して平安なものではありません。ちょうど、“毎日が祭りであったらいいのに”と思って、あるいは“もっと楽しい祭りはないものか”と思い、追い求め続けるのに似ているのではないのでしょうか。このような誘惑は、主の平安の御霊が私たちに臨む時、強い邪魔物になります。この節で、“あなたがたは”という言葉が、“すでに私は”という主語に変わっていることに心を止めましょう。私たちも、このみ言葉が私たちのためのものであることを願うでしょう。つまり勝利と直接関係したいと願うのです。私たちも勝利したいと願うのです。日本語には“あやかる”という言葉がありますがそれに似ているかもしれません。そのためには、この世の悪に勝利された方と直接関係していなければなりません。“あなたがたには悩みが多い”とも語られます。悩みが、仮になかったら、主に頼ることもしないでしよう。おまけに祭りの続きを求める心の悩みは、はるかに勝って、わたしたちを救いから遠ざけるのです。

週報

2008年 4月 27日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸